

＊＊ 予防接種を受ける前に ＊＊

予防接種について、気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前にかかりつけ医や看護師、市保健所疾病対策課までおたずねください。

次の方は予防接種を受けることができません

- ①明らかな発熱を呈している方（一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。）
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
- ③インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな方
「アナフィラキシー」というのは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、急に顔がはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- ④今までにインフルエンザの定期接種で、接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ⑤上記に掲げる方のほか、医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した場合

次の方は接種前に医師にご相談ください

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患を有することが明らかな方
- ②今までにけいれんを起こしたことがある方
- ③今までに免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ④間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患を有することが明らかな方
- ⑤インフルエンザ予防接種の成分又は鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対してアレルギーがあるといわれたことがある人

インフルエンザ予防接種の副反応について

予防接種の後に、一定の期間に種々の身体的反応や疾病がみられることがあり、それらを副反応と呼んでいます。副反応には次のようなものがみられます。

【一般的な副反応】

過敏症：まれに接種直後から数日中に、発疹、じんましん、紅斑、そう痒感等があらわれることがあります。

全身症状：発熱、悪寒、頭痛、倦怠感などを認めることがありますが、通常、2～3日中に消失します。

局所症状：発赤、腫脹、疼痛等を認めることがありますが、通常、2～3日中に消失します。

【重大な副反応】

まれにショック、アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）があらわれることがあり、そのほとんどは接種後30分以内に生じます。その他、ギラン・バレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、肝機能障害、黄疸、喘息発作などがあらわれるという報告があります。

※インフルエンザ予防接種を受けたことにより、重大な健康被害が発生した場合には、予防接種健康被害救済制度による対応となります。

予防接種後の一般的な注意事項

予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。

その他の注意事項は、4枚目の「インフルエンザ予防接種済証」に記載がありますのでご確認ください。